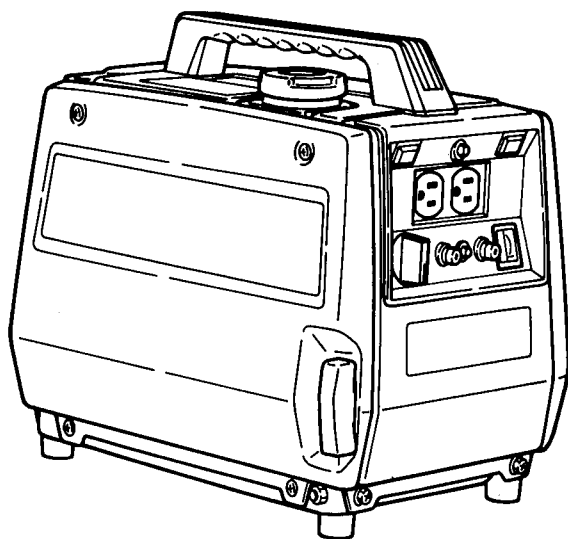


スバビルジェネレータ

SG550



取扱説明書

☆ご使用になる前に、安全のため必ずお読みください。

富士重工業株式会社



3ZZ9010113

国内排出ガス自主規制について



このラベルは、(社)日本陸用内燃機関協会の小形汎用ガソリンエンジン排出ガス自主規制に適合していることを示しています。

(社)日本陸用内燃機関協会：陸用エンジン業界の健全な発展と最新技術の開発を図り、併せて関連する諸製造業界の発展にも寄与することを目的とする団体です。

本協会は、小形汎用ガソリンエンジンの排出ガス中の有害物質を低減する自主規制に取り組んでいます。

自主規制の内容については、下記のホームページにてご覧頂けます。

<http://www.lemma.or.jp> (H15.1現在)

まえがき

このたびは、スバルジェネレータをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。この説明書には、スバルジェネレータを上手に安全にご使用いただき、常にご満足いただける性能を発揮させる上で必要なことをまとめてあります。ご使用前に全て熟読し、正しい取扱いをされますようお願い申し上げます。

取扱説明書は大切に保管し、いつでも見られるようにしておいてください。

尚、ご不明な点がございましたら、お買い上げの販売店にご相談ください。

※保証書は、裏面の販売店名と捺印をご確認のうえ、大切に保存してください。

またお手持ちの発電機のPROD No.及びSER No.を下記の空欄に記入しておきましょう。補用部品をご注文される場合に便利です。なおPROD No.及びSER No.の貼付箇所は4頁を参照してください。

PROD NO.									

SER NO.				

※仕様変更などにより内容が一部実機と異なる場合があります。ご了承下さい。

エンジンオイルが入っていませんので、ご使用になる前に必ず注入して下さい。

目次

ページ

1. 安全にお使いいただくために	1
2. 仕様諸元	3
3. 各部の名称	4
4. 各部の取扱い	5
5. 運転を始める前に	8
6. 発電機の運転のしかた	10
7. 定期点検について	14
8. やさしい点検・整備	16
9. 長期保存のしかた	18
10. 故障のときは	19
配線図	20

1. 安全にお使いいただくために

・この取扱説明書では、安全注意事項のランクを「危険」「注意」として区分してあります。

⚠ 危険 : 取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、死亡又は重傷を受ける可能性が想定される場合。

⚠ 注意 : 取扱いを誤った場合に危険な状況が起こりえて、中程度の傷害や軽傷を受ける可能性及び物的損害だけの発生が想定される場合。

なお、**⚠ 注意** に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。

いずれも重要な内容を記載していますので必ず守ってください。

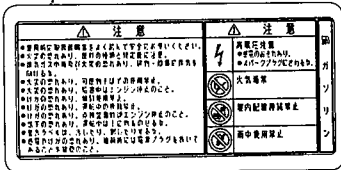
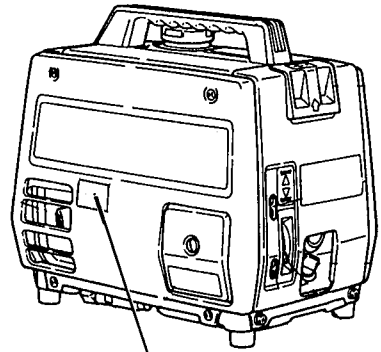
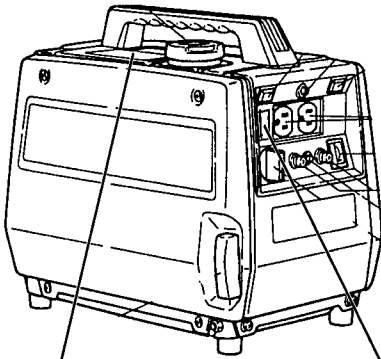
- ⚠ 危険**
- ・排気ガス中毒のおそれあり／換気の悪い場所で使用しないでください。
 - ・感電のおそれあり／ぬれた手でさわらないでください。
 - ・感電のおそれあり／コンセントにピンや針などの金属物を入れないでください。
 - ・けがの恐れ有り／回転部に棒や針金を入れないでください。
 - ・感電やけがのおそれあり／運転中、点検整備を行わないでください。
 - ・感電やけがのおそれあり／改造は絶対しないでください。

- ⚠ 注意**
- ・警告ラベルを汚したり、はがしたりしないでください。
 - ・感電のおそれあり／運転中、スパークプラグにさわらないでください。
 - ・感電のおそれあり／雨中で使用しないでください。
 - ・感電のおそれあり／溶接機として使用しないでください。
 - ・感電、火災のおそれあり／屋内配線に接続しないでください。
 - ・感電、けがのおそれあり／子供に使用させないでください。
 - ・感電、けがのおそれあり／始動時、電源プラグが抜いてある事を確認してください。
 - ・排気ガス中毒、火災のおそれあり／建物、設備に排気を向けないでください。
 - ・やけどのおそれあり／マフラーにさわらないでください。
 - ・けがのおそれあり／傾斜して使用しないでください。
 - ・けがのおそれあり／運転中、移動しないでください。
 - ・けがのおそれあり／運転中、本体の上に物をのせないでください。
 - ・けがのおそれあり／つり下げる場合は、つる位置に注意してください。
 - ・けがのおそれあり／DC12Vはバッテリー充電以外に使用しないでください。
 - ・火災のおそれあり／火気厳禁。
 - ・火災のおそれあり／可燃物のそばで使用しないでください。
 - ・火災のおそれあり／給油中はエンジンを停止してください。
 - ・火災のおそれあり／過負荷で使用しないでください。
 - ・火災のおそれあり／周囲を囲ったり、箱をかぶせて使用しないでください。
 - ・火災のおそれあり／燃料の種類と規定量にご注意ください。
 - ・他人に貸す時は必ず取扱説明書を添付してください。

その他の注意

- ・地盤の軟い所や、小石、土砂利などで凸凹している所では使用しないでください。
- ・カバー類を外したまま使用しないでください。
- ・使用中に音、臭気、振動などで異常を感じたら、直ちにエンジンを停止して販売店の点検を受けてください。
- ・仕業点検・定期点検は必ず実施してください。

- ・当社発電機には下記に示す場所に、特に重要な注意事項に対し注意ラベルが貼付されています。使用に際しては、十分に理解の上守ってください。
- ・注意ラベルが見えにくくなった場合や、はがれた場合には貼りかえてください。



部品番号 0732004690



部品番号 0732004670

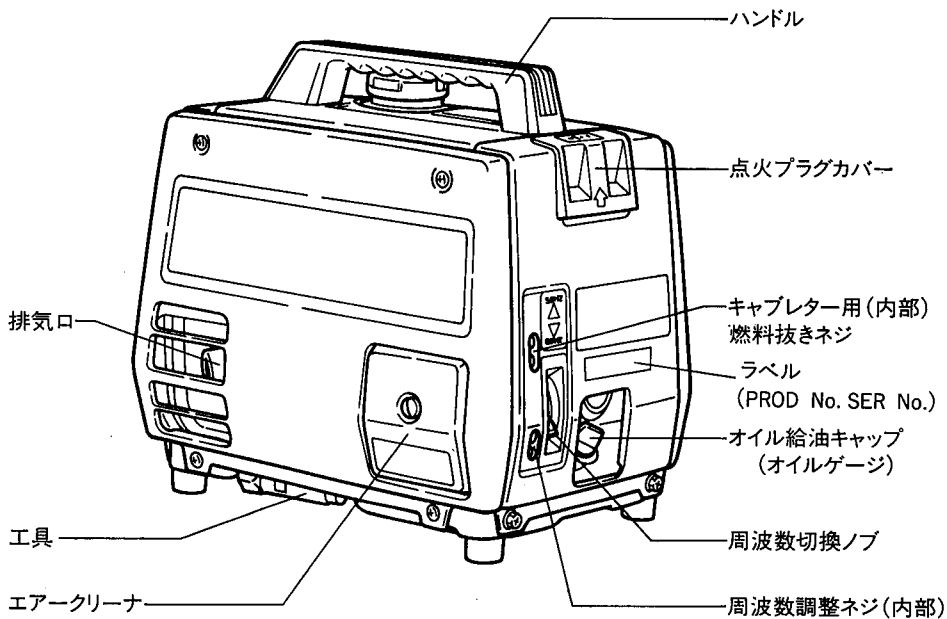
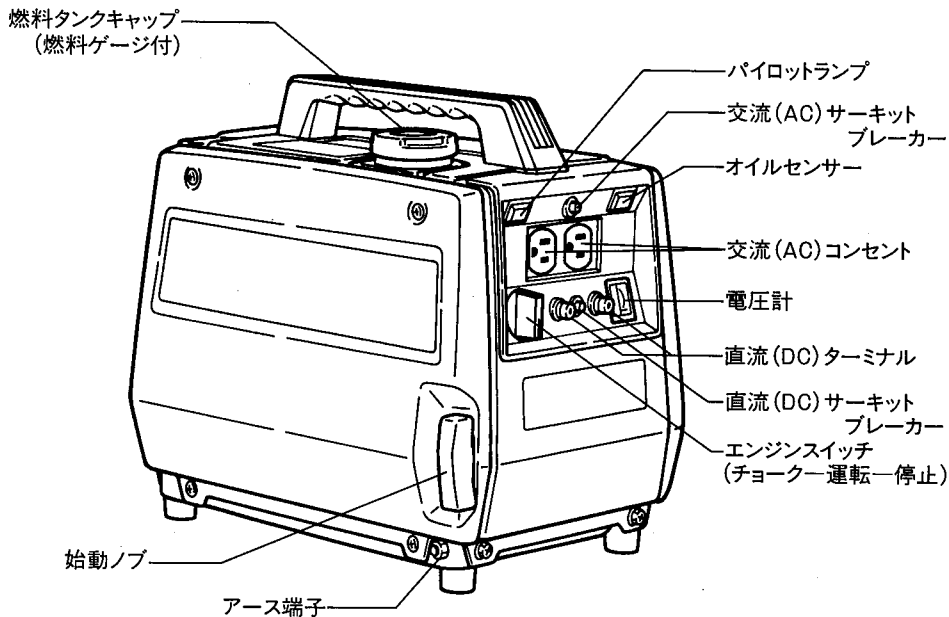


部品番号 0732004650

2. 仕様諸元

名 称		S G 550	
発 電 機	形 式	2 極回転界磁形単相交流発電機	
	励 磁 方 式	自己励磁方式	
	電 圧 調 整 方 式	コンデンサー補償式	
	定 格 周 波 数 (Hz)	50/60	
	定 格 出 力	交流 (V A)	450/550
		直 流 (W)	100
	定 格 電 圧	交 流 (V)	100
		直 流 (V)	12
	定 格 電 流	交 流 (A)	4.5/5.5
		直 流 (A)	8.3
力 率	1.0		
エ ン ジ ン	名 称	E Y 08 D	
	形 式	空冷 4 サイクルガソリンエンジン	
	総 排 気 量 cm ³ (cc)	78	
	使 用 燃 料	自動車用ガソリン	
	燃料タンク容量<満タン時>(L)	2.0<2.3>	
	連続運転時間 定格時<満タン時>(h)	約3.4<3.9>/約2.9<3.3>	
	潤 滑 油 量 (L)	0.35	
	点 火 方 式	電子点火方式	
	始 動 方 式	リコイル方式	
装 備	交 流 出 力 端 子	標準 2 連コンセント	
	直 流 出 力 端 子	ターミナル	
	過 電 流 保 護 装 置	サーキットブレーカ	
	電 圧 計	有	
	パイロットランプ	有	
	燃 料 ゲ ー ジ	有	
	オ イ ル セ ン サ	有	
寸法 (全長×全幅×全高) (mm)	370×265×345		
乾 燥 質 量 (kg)	18.5		

3. 各部の名称

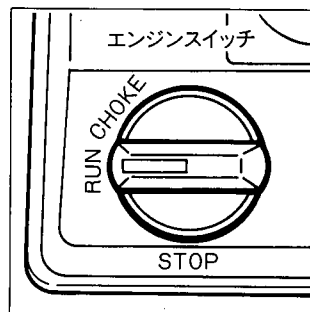


4. 各部の取扱い

① エンジンスイッチ

エンジンスイッチの操作に、燃料コックとチョークが連動しているので、取扱いが容易になっています。

CHOKE	エンジン始動時のつまみ位置です。 (チョークバルブが作動します。)
RUN	運転時のつまみ位置です。 (エンジンが暖まっている時は、 この位置で始動します。)
STOP	エンジンを停める時のつまみ位置です。 (燃料コックも閉じます。)



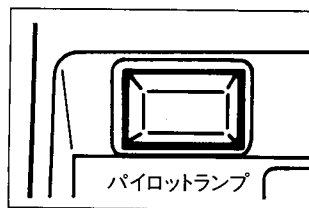
② パイロットランプ

発電機が発電していることを表示します。

点灯(緑色)……発電中

消灯……………停止

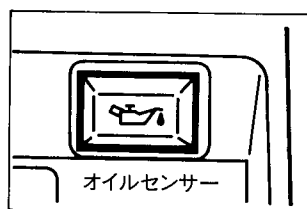
ACサーキットブレーカーが「OFF」になるとパイロットランプも同時に「消灯」します。



③ オイルセンサー

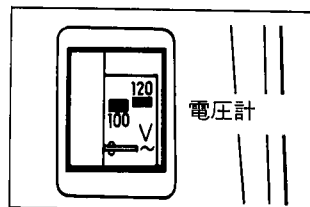
エンジンオイルの油量が規定以下になりますと、警告ランプが点灯し、エンジンは自動的に止まります。オイル不足でエンジンが停止した時は、始動ノブを引いても警告ランプが点滅するだけで、エンジンはかかりません。この場合はオイルを注入口の口元まで補給してください。

(オイル補給方法は(8)頁参照)



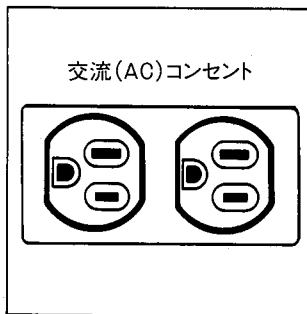
④ 電圧計

発電機の交直流出力電圧を表示します。

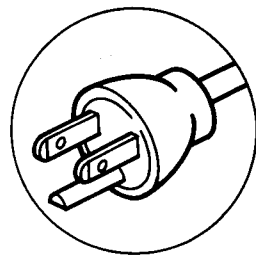


5 交流(AC)コンセント

交流の電気を取り出せます。



- 差し込みプラグは、図のような接地型3本足プラグを使用してください。

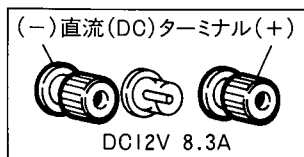


6 直流(DC)ターミナル

バッテリー充電専用の直流を取り出すことができます。

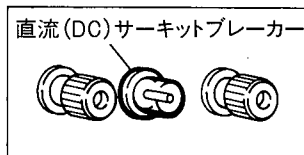
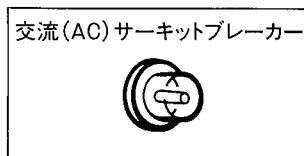
赤色が(+)

黒色が(-)です。

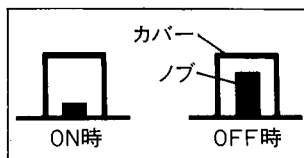


7 交流(AC) 直流(DC)サーキットブレーカー

交流サーキットブレーカー、直流サーキットブレーカーとも電流が使用可能範囲を越えた時、または使用器具に異常があった時に作動し電流を遮断します。



使用器具の消費電力が大きすぎないか、あるいは器具に異常がないか点検の上、カバーの上からノブを押して「ON」にしてください。



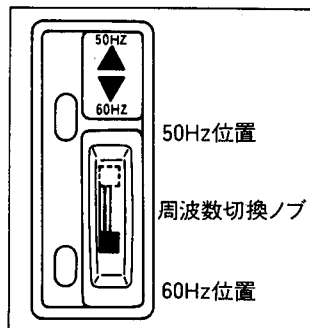
⑧ 周波数切換ノブ

通常使用する場合は、60Hzの位置に合わせます。但し50Hz表示のある電気器具を使用する場合は、50Hzの位置に合わせてください。

(使用地域の周波数を確認して下さい。)

周波数の切換は必ずエンジンを止めてから行ってください。運転中に切換えると電気器具や発電機に悪影響をあたえる場合があります。

ります。

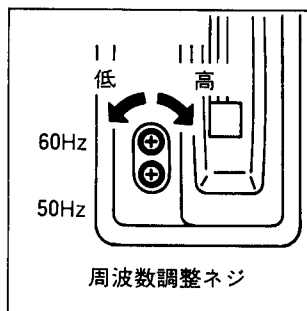


⑨ 周波数調整ネジ

カバーの中に周波数調整ネジがあり、(+)ドライバーで周波数の微調整ができます。

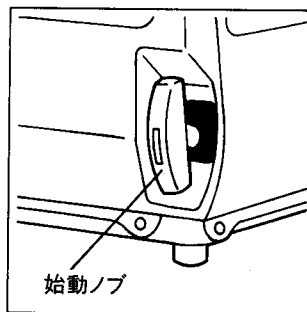
右へ回せば周波数は高くなり、左へ回せば周波数は下がります。

出荷時に調整してありますので、通常は調整する必要はありません。



⑩ 始動ノブ

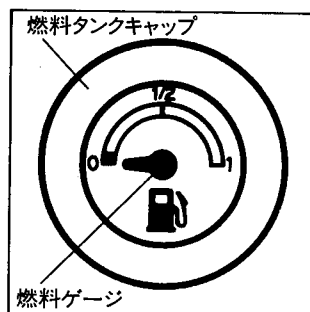
発電機を始動するときに、この始動ノブを引きます。



⑪ 燃料ゲージ

タンク内の燃料の残量を指示します。

指針が赤目盛(0)を指した時、タンク内には約500mlの燃料が残っています。(あと1時間くらい運転するとタンクは空になります。)

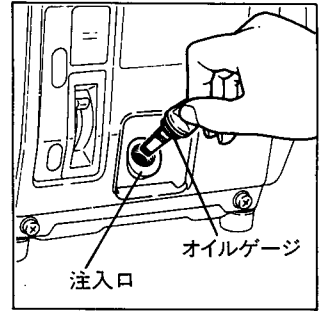


5. 運転を始める前に

① エンジンオイルの点検・補給

オイルゲージを外してエンジンオイルの点検を行います。

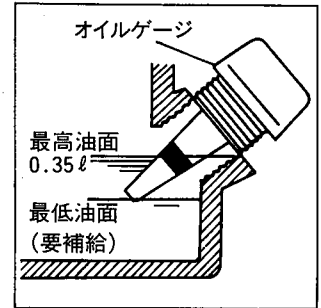
- オイルが少ないときには、新しいオイルを注入口の口元まで補給します。
- オイルの汚れが著しいときは交換してください。(オイル交換の方法は17頁参照)



- ☆ オイルは、1年中気温に関係なく使用出来る SAE10W-30または SAE10W-40を推奨します。

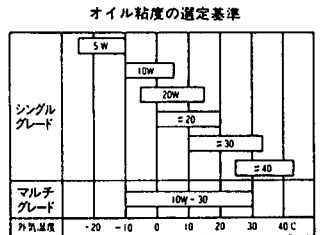
(但し、気温が高い時にご使用する場合は、オイル消費が増す傾向がありますので、日常の点検にご注意ください。)

もしシングルグレードオイル(SAE #30等)を使用する場合は、外気温度に合せて適当な粘度のオイルを選んでください。



- ☆ オイルの品質はSC級以上のものをご使用ください。

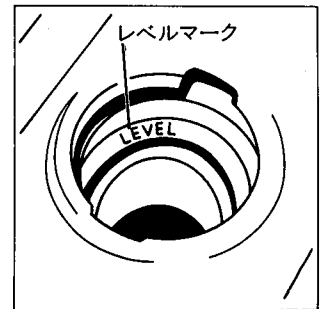
1. エンジンオイルの質および量を低下させると機付損傷をまねきます。
2. オイルの点検・補給は発電機を水平に置いて行ってください。



② ガソリンの補給

燃料タンクに燃料を入れる。

- エンジンスイッチを「STOP」にし、タンクキャップを取り外します。
- 注入口の「LEVEL」位置までガソリンを補給します。



タンク容量	2ℓ (「LEVEL」位置まで)
-------	------------------

- ・給油時火気には十分注意してください。
- ・注入口の「LEVEL」以上は入れないでください。
- ・給油時は必ずエンジンを停めてください。

③ 発電機周囲の点検

- ・発電機のまわりの燃えやすいものや、危険物は取り除いてください。
- ・建物その他の設備から1 m以上離してください。
- ・風通しは良いか。換気の悪い場所で使用しないでください。
- ・排気口は風通しの良い広い場所に向けてください。
- ・周囲の火の気は取り除いてください。
- ・発電機は地盤が硬く平坦な、安定した場所に設置してください。
- ・発電機をダンボールなどで囲わないでください。

④ 使用する電気器具の接続を切ってください。

発電機に、スイッチの入ったままの電気器具が接続されていますと、発電機の始動困難、発電困難になることがあります。また、電気器具が不意に作動を始めるので大変危険です。

発電機を始動する前に必ず、接続電気器具のプラグを抜いてください。

6. 発電機の運転のしかた

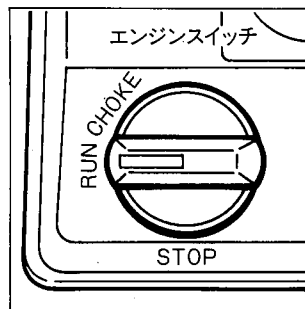
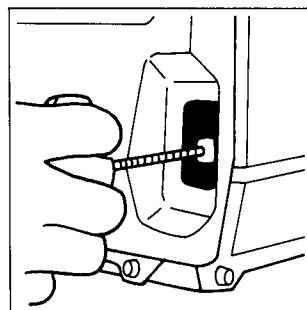
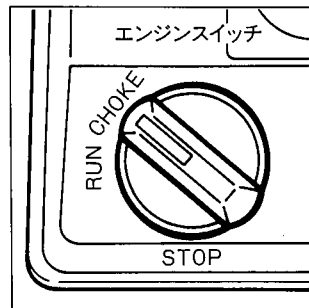
1 始 動

- (1) オイル、燃料を点検します。
- (2) 周波数切換ノブを60Hzの位置に合わせます。
但し、50Hz表示のある電気器具を使用する場合は50Hzの位置に合わせて下さい。
(使用地域の周波数を確認して下さい。)
- (3) 電気器具の接続コンセントを抜きます。
- (4) エンジンスイッチを「CHOKE」位置に合わせます。
(エンジンが暖まっているときは「RUN」の位置で始動します)
- (5) 始動ノブをゆっくり引いてゆくと重くなる所(圧縮点)があります。それを更に少し引くと、一度軽くなることがありましたら、そこから始動ノブを一旦もとに戻してから一気に引張ります。
- (6) 始動ノブは手から離さずにゆっくりと戻してください。

数回始動ノブを引いて始動しないときには、エンジンスイッチを「RUN」にして、始動操作を行なってください。

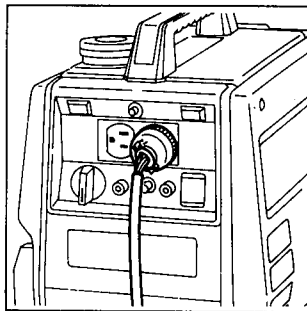
- (7) 20秒～30秒運転を行なった後、エンジンスイッチを「RUN」にします。
- (8) パイロットランプが点灯して、発電機が発電していることを確認してください。

パイロットランプが点灯していない場合は、ACサーキットブレーカーを押してください。



② 交流(AC)の取り出し方

- (1) パイロットランプが点灯していることを確認します。
- (2) 電気器具のスイッチが切れていることを確認してから差し込みプラグを交流コンセントに接続します。
- (3) 電気器具のスイッチを入れて使用してください。



☆ 交流の使用可能範囲

電気製品には、通常、電圧・周波数及び消費電力等が表示されています。電気製品を使う場合、この表示されている消費電力がその電気製品を運転するために必要な電力となります。しかし、発電機を電源として電気製品を使用する場合は、さらにその電気製品の力率や起動電流を考慮して発電機の出力を選択しなくてはなりません。

下記に、発電機形式に対して使用できる電気器具の消費電力を参考に示しましたので、使用する電気器具を選ぶ場合の目安として下さい。

電 気 器 具	使 用 可 能 範 囲	
	50Hz	60Hz
照明・電熱器・ラジオ・テレビ・ステレオなど	450Wまで	550Wまで
電 動 工 具 類	350W程度まで	450W程度まで

- (1) 2ヶ所以上の交流コンセントを同時に使用する時は、器具の消費電力の合計が上表の値も超えないように注意してください。
- (2) 電動工具などモータを使用した器具では起動電流が大きい場合があり、定格の3～5倍の電力を必要とする事があります。従いまして器具の種類によっては、使用できない事がありますので、このような場合には、お買い上げの販売店にご相談ください。
- (3) 電気器具の消費電力が使用範囲を越えた場合、又は、電気器具に異常（ショート）等があった場合には、ACブレーカが「OFF」になるか、発電機の回転が異常に低くなる事があります。このような場合には、発電機を停止させ、使用器具の消費電力が大き過ぎないか、器具に異常がないかを点検してください。

- (4) 周波数（発電機回転数）は、出荷時に調整してあります。周波数を変えると、発電機の故障の原因になりますので、故意に変えないでください。
- (5) 長い電線を使用すると、電線の抵抗が大きくなり、出力電圧が低下します。このまま電気器具を接続して使用すると、電気器具が故障したり、運転が出来ない場合がありますので注意してください。
下記に、電線の太さと電圧降下を示します。

断面積 mm ²	許容電流 A	電線30m延長時の電圧降下					
		5A	10A	15A	20A	25A	30A
1.25	12	4.5V	8.9V	*	*	*	*
2.0	17	2.8V	5.7V	8.6V	*	*	*
3.5	23	1.6V	3.1V	4.7V	6.2V	*	*
5.5	35	1.0V	2.0V	3.0V	4.0V	5.0V	6.0V

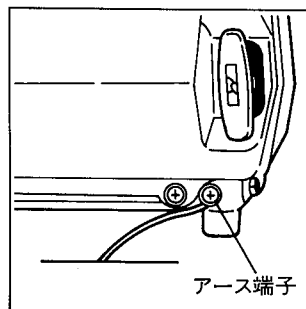
- (6) 延長コードにコード・リールを使用する場合

- ◎コード・リールは、巻いたまま使用しないこと。もし巻いたまま使用すると、さらに電圧降下しますので全部引き延ばして使用してください。
- ◎コード・リールを選ぶとき、コード・リールの電流容量を確認の上、機器容量に適合したものをご使用ください。

☆ アース端子

アース端子に、アース線を接続して先端を地中にアースします。

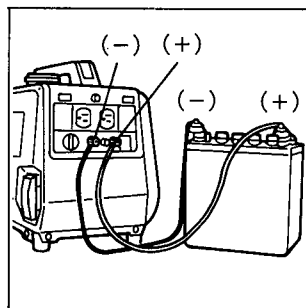
使用する電気器具をアースしたときには、発電機本体も必ずアースしてください。



③ 直流(DC)の取り出し方〔12Vバッテリー充電専用〕

直流(DC)ターミナルは、12Vバッテリーの充電専用です。

発電機とバッテリーの接続方法
発電機の(+)ターミナル(赤色)——バッテリーの(+)端子
発電機の(-)ターミナル(黒色)——バッテリーの(-)端子



☆ バッテリーの充電要領

- (1) 発電機とバッテリーの(+)(-)の極性を間違いなく接続します。バッテリーから他の器具に接続されているコードはすべて取り外してください。
- (2) バッテリーの各層の栓をはずします。
- (3) バッテリーの液量を点検して、下限 (LOWER) に近いときは蒸留水を上限 (UPPER) まで補給してください。
- (4) 周波数切換ノブを60Hzに合わせてください。
- (5) DCサーキットブレーカーを押してください。(ON)
- (6) 発電機を始動して充電します。充電時間はバッテリーの放電状態によって異なりますので、比重計でバッテリー液の比重をチェックしながら充電してください。

バッテリー液の比重が1.26～1.28になれば充電完了です。

- ・例：12V-40AHの自動車用バッテリーの場合、完全放電状態から5～6時間でほぼ良好な充電状態になります。

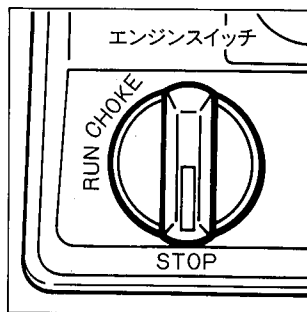
【バッテリー充電上の注意】 火気厳禁

- バッテリーから引火性の水素ガスが発生します。爆発の危険がありますので、充電は風通しのよい場所で行ない、ショートやスパークをさせないよう、火気を近づけないよう十分に注意してください。
 - バッテリー液が目や皮ふにつくと失明や、やけどを起こすこともありますから十分に注意してください。万一付着したときは、すぐに多量の水で洗い医師の診療をうけてください。
- (1) 大容量のバッテリーを充電する場合、直流出力の使用範囲を越えて、直流 (DC) サーキットブレーカーが作動することがあります。この場合にはしばらく待ってからサーキットブレーカーを押し込んで「ON」にしてください。
 - (2) 直流 (DC) と交流 (AC) を同時に使用できますが、そのときは交流の消費電力の合計が下記の範囲を越えないようご注意ください。

350W(60Hz時)

4 発電機のとめ方

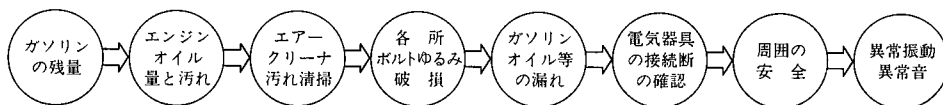
1. 接続した電気器具のスイッチを切り、プラグを抜きます。
2. エンジンスイッチを「STOP」にします。



7. 定期点検について

1 日常点検

ご使用になる前に是非、次の点検を行なってください。



2 定期点検と修正（普通の状態で使用されている場合） 火気厳禁

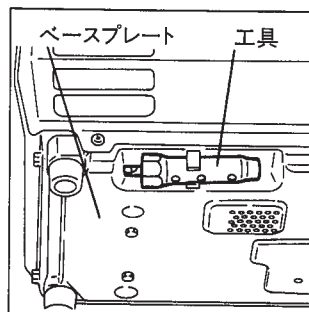
- (1) 燃料パイプ類は使用時間にかかわらず2年で交換してください。
尚、点検時に於て漏れ等のあるものは、2年を待たずに交換してください。
- (2) 修正、分解、清掃時、所定時間に満たない部品でも使用状態によっては、修正又は交換を行ない標準性能の維持をはかってください。
- (3) 点検項目表の◎印の項目については販売店又は整備工場にご用命ください。

項目	運転時間	8時間(毎日)	50時間(毎週)	200時間(毎月)	500時間	1000時間
各部の清掃及び締付点検		○以下(毎日)				
エンジンオイル点検・補給		○(毎日規定量最大まで補給する)				
エンジンオイルの交換	(初回20時間目)	○以下100時間毎				
点火プラグの清掃		○以下50時間毎				
点火プラグの間隙調整				○以下200時間毎		
点火プラグの交換				◎ "	○以下500時間毎	
エアークリーナの清掃		○以下50時間毎	◎ "			
クリーナエレメントの交換					○以下500時間毎	
キャブレターの清掃					◎ "	
シリンダヘッドのカーボン除去					◎ "	
フューエルフィルタの清掃				○以下200時間毎		
バルブクリアランス点検調整					◎以下500時間毎	
バルブ及びシート面の点検					◎ "	
オーバーホール						◎(初回1000時間目)
ACコンセントの点検		○以下(毎日)				
DCターミナルの点検		"				
ブレーカーの点検		"				
エンジンスイッチの点検		"				
パイロットランプの点検		"				
電圧計の点検		"				
ローターの点検						◎以下1000時間毎
ステータの点検						◎ "
エンジンマウントの交換						◎ "

8. やさしい点検・整備

① 付属工具

付属工具は、発電機底部のベースプレートに取り付けられています。

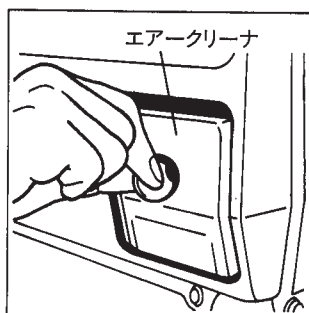


② エアークリーナの清掃

エアークリーナのエレメントが目詰りすると、発電機の出力不足や運転不調を起こし、燃料消費も多くなります。定期的に清掃するよう心掛けてください。

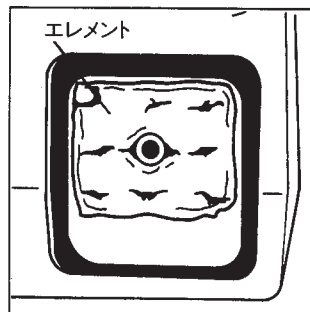
清掃時間：50時間毎

ほこりのひどい場所で使用したときは、毎日（または10時間ごとに）清掃してください。



☆ 清掃方法 火気厳禁

- (1) クリーナカバーの取付ネジをコイン等でゆるめカバーを取り外します。
- (2) エレメントを取り出し、きれいな白灯油で洗浄します。
- (3) 洗浄したエレメントを 白灯油 3：エンジンオイル1 の割合の混合油に浸し、固く絞って取り付けます。



1. エレメントを洗浄するときは、火気には十分注意してください。
2. オイルに浸したエレメントを絞るときは、エレメントをねじらないで固く握るようにして絞ってください。

③ エンジンオイルの交換

〈オイル交換時期〉

初回：20時間目 以後：100時間毎

〈使用オイル〉

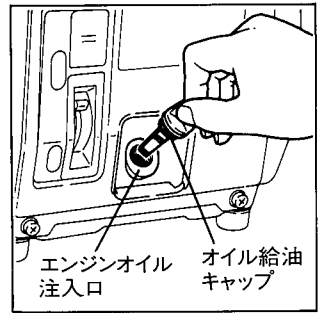
オイルは、1年中気温に関係なく使用出来る S A E 10W-30または、SAE10W-40を推奨します。もし、シングルグレードオイル（SAE #30等）を使用する場合は、外気温に合わせて適当な粘度のオイルを選んでください。

オイルの品質は S C 級以上のものをご使用ください。

オイル量：0.35 ℓ

〈オイル交換の方法〉

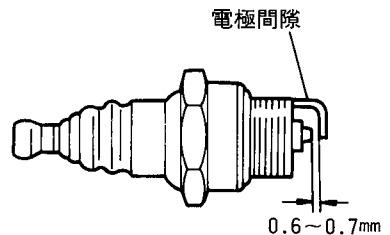
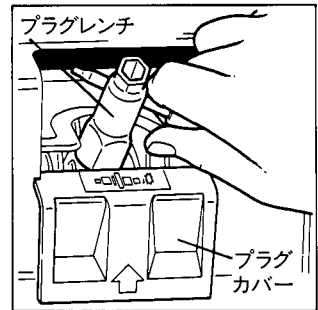
- (1) オイル給油キャップを外し、発電機本体を傾けて、オイルを抜きます。エンジン停止後の暖かいときに行なうと、早くきれいに抜けます。熱いオイルが体にかかると火傷する恐れがありますので十分に注意してください。
- (2) 発電機を水平に置き、注入口の口元まで新しいオイルを入れます。
- (3) オイル注入後、オイル給油キャップを確実に締めつけてください。



④ 点火プラグの点検・調整

〈点検・調整の方法〉

- (1) プラグカバーを開けます。
- (2) プラグキャップを外し、プラグレンチで点火プラグを取り外します。
- (3) プラグがカーボンで汚れているときは、プラグクリーナまたはワイヤーブラシなどで汚れを落します。
- (4) プラグキャップを点検し、広い場合は側方電極をつめて0.6～0.7mmに調整します。
- (5) プラグを交換するときは、次のものを使用してください。

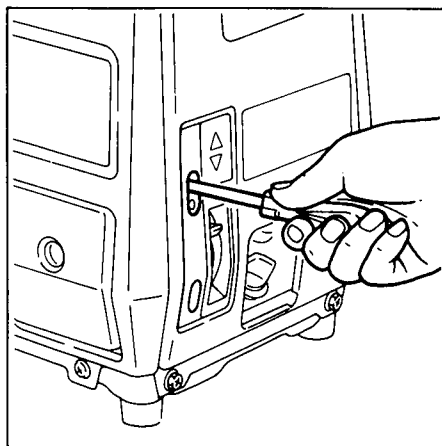


指定点火プラグ	BMR 4 A (NGK)
---------	---------------

9. 長期保存のしかた

☆ 発電機を長期間使用しないときは、次のような手入れを行って格納・保管してください。

- (1) 燃料タンク及び気化器内のガソリンを抜きます。 **火気厳禁**
タンク及び気化器内にガソリンを1ヶ月以上入れたままにしておくと腐敗・変質して、次に使用するときエンジンが始動しなくなる場合があります。気化器内のガソリンは下図のようにして、気化器のドレンより抜いてください。
- (2) エンジンオイルを交換します。
- (3) エアクリーナーを清掃します。
- (4) 各部のボルト・ナットにゆるみがあれば増締めします。
- (5) 発電機の各部をきれいに清掃します。
防錆スプレーなどがあれば、吹き付けておきましょう。
- (6) エンジンスイッチは「停止」の位置にしておきます。
- (7) リコイルスタータの始動ノブを引いて重くなったところで止めておきます。
- (8) 屋内の湿気の少ない換気の良い所へ保管してください。
 - ・ガソリンを抜くときは、火気には十分注意してください。
 - ・発電機の水洗いは絶対にしないでください。



10. 故障のときは

発電機が始動しないときや、始動しても電気が取り出せないときは、まず次の点をチェックしてください。

① 始動しないときは

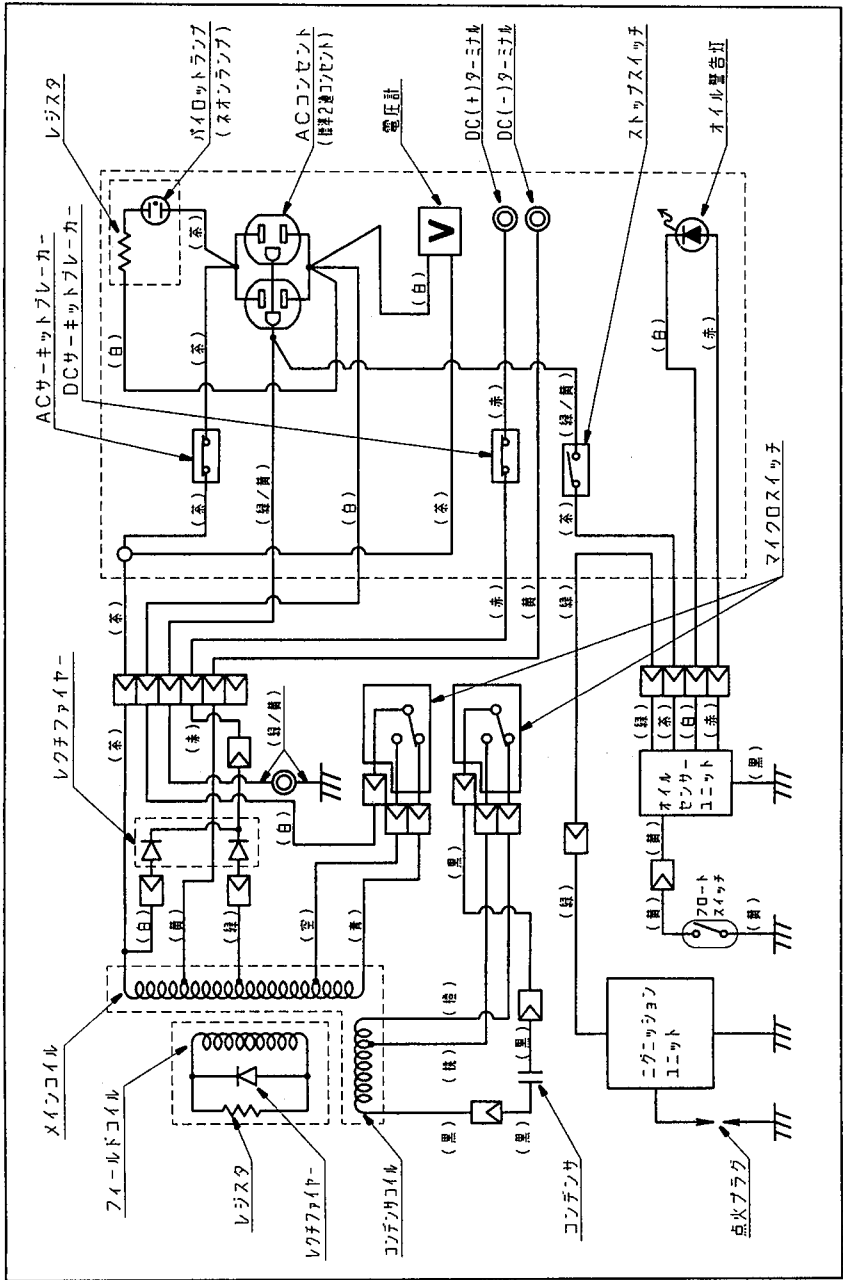
- (1) エンジンスイッチが「STOP」になっていませんか？
……「CHOKE」の位置にします。(暖まっているときは「RUN」の位置にします)
- (2) タンクにガソリンが入っていますか？
……入っていない場合は、ガソリンを補給します。
- (3) 電気器具が接続されていませんか？
……接続されている器具のプラグを引き抜く。
- (4) 点火プラグのキャップがゆるんでいませんか？
……点火プラグキャップを確実に押し込んでください。
- (5) 点火プラグが汚れていませんか？
……点火プラグを外して、電極を清掃してください。

② 電気が取り出せないときは

- (1) 交流 (AC) サーキットブレーカー、または直流 (DC) サーキットブレーカーが「OFF」になっていませんか？
……電気器具の消費電力が適正か、器具に異常がないかを確認してから、サーキットブレーカーを押し込んで「ON」にします。
- (2) 器具の接続がゆるんでいませんか？
……交流 (AC) コンセントまたは直流 (DC) ターミナルの接続を確実にしてください。
- (3) 電気器具を接続したまま始動しませんでしたか？
……いったん器具のプラグを引き抜いて発電機の運転が安定してから再度接続してください。

☆ 以上の点検を行っても、発電機が正常に運転できないときや、その他の故障の場合は、お買い上げの販売店に点検修理を申し付けください。

SG550 配線図



富士重工業株式会社

〒160-0023 東京都新宿区西新宿1-7-2(スバルビル)

産業機器カンパニー 〒364-8511 埼玉県北本市朝日4-410

サービス部

国内技術サービス課 TEL 048-593-7857 FAX 7965

部品課 TEL 048-593-7780 FAX 7797

国内営業部

東部営業課 TEL 048-593-7847 FAX 7948

西部営業課 TEL 048-593-7851

機器営業課 TEL 048-593-7841